

とアメリカ、2つの国で暮らした日々を振り返り、「現代はヘイト（憎しみ、憎悪）がはびこっているけれど、さまざまな国・地域や人種が協調してやっていかないとけませんね」と話されました。

広島県内にお住まいで執筆を希望される方は、気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館
TEL (082) 207 - 1202

「やさしい日本語」講座を実施しました

広島市に暮らす外国人は年々増加しています。彼らを地域社会の一員として受け入れ、共に暮らしていきたいと思うときに、言葉の壁につまずく日本人の方もいるのではないのでしょうか。

国際交流・協力課では、9月26日（土）に公益財団法人ひろしま国際センターの犬飼康弘^{いぬかいやすひろ}さんを講師に迎え、「やさしい日本語」講座を開催しました。地域



犬飼康弘講師に熱心に質問する参加者

で暮らす外国人とコミュニケーションを取るための分かりやすい日本語を学ぶ講座です。

日本在住外国人の大部分

が、日常的で簡単な内容であれば日本語でコミュニケーションが取れること、しかし、熟語や漢字が多い「難しい日本語」では大変理解しづらいことを、様々なデータを用いて解説していただきました。また、災害などの緊急時に外国人にとって難解な日本語で情報発信を行うと、安全に関わる情報の伝達が遅れ、命に関わることも指摘されました。

まず、「やさしい日本語」で表現するポイントを習った上で、グループに分かれて練習を行いました。以下は、実際の練習問題です。

やさしい日本語にしてください。

Q 余震による家屋倒壊の恐れがないとは限らないため、避難所で待機してください。

↓

A まだ、余震＜後からくる地震＞が心配です。余震で家が倒れます。危ないです。避難所＜みんなが逃げるところ＞にいてください。

いかがですか。ポイントは、①難しい言葉は簡単な言葉に言い換える（繰り返し使われる重要な情報はあえて残す）、②一文の情報量を少なくする、③分かりにくい言葉は例を出し、必要な情報は補う、④不要な情報は捨てる、⑤曖昧な表現・二重否定を避ける、などです。

みなさんもぜひ、「やさしい日本語」を使って外国人の方とコミュニケーションをとってみてください。

（国際交流・協力課）

「外国人のための安全教室」を実施しました

外国人の増加に伴って、広島市に住む外国人市民が交通事故や犯罪に遭遇する危険性も増えています。日本の習慣やルールがよく分からないことが原因で、悪気はないのに、知らないうちに問題を起こしてしまったり、トラブルに巻き込まれる外国人もいます。

そういった危険を避け、地域社会の一員として安全に生活してもらうため、9月28日（月）、広島県警察本部と広島中央警察署の協力により、生活ルールや交通安全の学習機会を提供する「外国人市民のための安全教室」を開催しました。中国、台湾、フィリピン、パレスチナ出身の15人が参加しました。

講師は広島県警察本部と広島中央警察署の警察官です。母国と異なるため注意が必要な生活や交通のルールを分かりやすく教えていただき



交通標識について学ぶ参加者

ました。講義は「やさしい日本語」を使用し、適宜英語と中国語の通訳を交えながら行いました。

また、難しい内容ばかりではなく、警察署内で110



白バイと記念撮影

番を受け、巡回している警察官やパトカーの位置と事件発生場所とを即座に映し出す大きな液晶スクリーンがある「110番通信指令室」の見学や、パトカーや白バイとの記念撮影など、楽しい一幕もありました。参加者の学生や親子は、楽しみながら安全について学んでいました。

（国際交流・協力課）